

たきかわ歴史年表

和暦	西暦	事柄
	2 1869	蝦夷を北海道と改め、11国86郡に分ける
	5 1872	高畑利宜が上川探査
	19 1886	上川仮道路（市来知〜忠別太間）ができる 上川道路改修、高畑利宜が空知太駅通を開業する
	22 1889	十津川郷民632戸が空知太に到着 （このうち92戸が滝川屯田兵に応募し、滝川に入地）
	23 1890	北海道庁令をもって滝川村が設置される 滝川村戸長役場が開庁 屯田兵348戸入地、第一中隊、第二中隊を編成(440戸) 兵村に私立南・北小学校を開校
明治	24 1891	兵村でリンゴ植樹を始める
	27 1894	江部乙屯田兵400戸が入地 滝川北尋常高等小学校を開校
	28 1895	国木田独歩が三浦屋で休憩
	31 1898	空知太駅から旭川まで鉄道上川線開通 空知太駅を移転、滝川駅とする 江部乙駅が設置される 石狩川・空知川氾濫、被害甚大
	35 1902	石狩川鉄橋ができる
	39 1906	農務省令により、滝川種牛牧場指定
	42 1909	江部乙村分村
	43 1910	滝川村が滝川町となる
大正	2 1913	鉄道下富良野線開業
	3 1914	市街に初めて電灯がつく
	7 1918	農商務省滝川種羊場設置
	9 1920	庁立滝川中学校が開校
	13 1924	空知川堤防ができる
昭和	9 1934	町立社会病院が開院
	14 1939	北海道人造石油(株)滝川工場竣工
	16 1941	人造石油工場のコークス炉火入れ、使用開始
	20 1945	終戦 人造石油生産停止、農地解放
	21 1946	人石が滝川化学工業（株）となる
	27 1952	滝川化学工業（株）倒産
	27 1952	江部乙村が江部乙町となる
	30 1955	陸上自衛隊駐屯、人口3万人を超える
	31 1956	札幌〜滝川間鉄道複線化なる
	33 1958	滝川市となる
	37 1962	北電（株）滝川火力発電所完成
	40 1965	江竜橋が完成
昭和	46 1971	滝川市と江部乙町が合併、新「滝川市」に 市立滝川西高等学校開設 文化センター、図書館が開館
	52 1977	郷土館開館
	55 1980	空知川で「タキカワカイギュウ」の化石が発見される
	57 1982	國學院女子短期大学が開校する
	60 1985	滝川市生涯学習振興会が設立
	61 1986	美術自然史館開館 駅前再開発ビルが完成、西友滝川店が入る
	62 1987	NHK朝の連続テレビ小説「チョッちゃん」の滝川ロケ開始
	63 1988	道央自動車道、美唄〜滝川間が開通する
平成	2 1990	滝川市開基百年記念式典挙行
	3 1991	こども科学館オープン 日本画家・岩橋英遠、文化勲章受章
	8 1996	道立花・野菜技術センター、開所式 市役所新庁舎開庁
	12 2000	総合交流ターミナルたきかわ（道の駅たきかわ）開館
	15 2003	西友滝川店が撤退（17年間営業）
	23 2011	新市立病院開院 市立図書館が市庁舎2階に移転開館
平成	25 2013	北海道人造石油資料が化学遺産に認定
	28 2016	滝川屯田兵文書が北海道有形指定文化財に指定



屯田兵屋（明治）



中川茶紙店（大正）



茶の間（昭和）



駄菓子屋（昭和）

滝川市郷土館は“たきかわ”に生きる人たちのこれまでのくらしぶり（歴史）や生活のしかた（民俗）を紹介する博物館です。わたしたちの暮らしや生活の歩みを知る貴重な資料やパネルがたくさん展示してあります。

“ふるさと・たきかわ”のさまざまな姿を知るために、どうぞゆっくりご覧ください。

■利用案内

- ・開館期間 5月～9月
- ・開館日 土曜日・日曜日・祝日
- ・開館時間 12:00～16:00
- ・入館料 小中学生 50円
高校生 100円
一般 150円

※開館日以外の見学を希望される場合は下記問合先まで事前にご相談ください。（月曜日・祝日の翌日は除く）

■滝川市郷土館 073-0033 北海道滝川市新町 3-8-20

〈問合先〉 滝川市美術自然史館 TEL0125-23-0502



滝川市 郷土館

TAKIKAWA Local History Museum

1 大むかしの たきかわ



滝川市内では石器や土器など古代人の生活の跡がたくさん見つかっています。

縄文前期(約 6,000 年前)の朝日町 I 遺跡ではこの地域はサケ、鹿、どんぐりなどの自然の恵みが豊富な環境であったことを示す土器や石器が出土しました。

石狩川と空知川が合流する滝川周辺はアイヌの人々に「ソラフチ (=滝がごちゃごちゃ落ちている川=空知川)」「プトゥ (=の川口)」と呼ばれていました。

幕末期の松浦武四郎らの探検などで「ソラフチ・プトゥ」が知られ、その音から「空知太」の字が当てられました。明治時代にはその意味をとり「滝川」の名称となりました。

2 ソラフチ・プトゥ



松浦武四郎画 セッカウシ

3 屯田兵村



明治 22 年から 23 年に、滝川へ 440 戸、明治 27 年に江部乙に 400 戸の屯田兵が入植し、開墾のくわがおろされました。

館内には榎ぶきの屋根に煙出しがついた屯田兵の住まいの一部が再現されています。

4 農地をひらく



明治時代、北海道庁は石狩川流域を調査し、開拓計画がたてられました。これに基づき、屯田兵たちは暗い原始林を農地へと切り拓いていきます。

展示では入植期から昭和にかけての農耕具ともに滝川のめん羊資料を展示。滝川の開墾の歴史をご紹介します。

多くの囚人を犠牲とした明治 19 年からの北海道庁の「上川道路」の開削によって北海道の内陸開拓の端緒は開かれました。

その後、滝川には空知太駅通や上川鉄道の駅が設置され交通の拠点となりました。

展示では道路にくわえて渡船や鉄道など、交通・流通の変遷を示す資料を紹介しています。



道

5

6 まちをひらく



交通の要衝となった滝川は商業が発展し、市街地を形成しました。

市街地の推移を文書資料や地図、写真パネル、様々な生活の道具をまじえて紹介するとともに大正時代の商家(中川茶紙店)を復元、当時主流であった座売り商いの様子を伝えます。

7 戦争と たきかわ



2 階の「戦争とたきかわ」小展示室では滝川における戦争ごとの戦死者名を記したパネルや戦争資料を展示しています。

また、戦時体制下、軍用での利用を見据えて建設された北海道人造石油(株)滝川工場(石炭から石油をつくる化学工場)の歴史も紹介しています。

滝川をはじめ空知、上川の開拓に貢献した高畑利宜。開拓使や北海道庁の役人として上川探査や上川道路の開削など内陸部の開発に携わり、退官後には滝川に住居をかまえ駅通や運送業の経営にあたりました。

利宜がのこした膨大な資料とともにその足跡をたどります。



高畑利宜

8

昭和の こどもたち



路地にあふれるように遊んでいた昭和中期の子どもたち。その社交場だった「駄菓子屋」や当時の学校の教室風景を再現し、昔のさまざまな玩具とともに「こども文化」を紹介しています。

メンコや輪なげなど昔の遊びを体験できるコーナーもあります。